

びるっぱ

Vol.483 2026. 10

第38回 日本看護学校協議会学会 開催

表紙の写真



脊椎内視鏡センター 新設
令和8年熊本地震
近森病院DMAT 活動報告
第11回 病院体験ツアー



近森病院 近森リハビリテーション病院 近森オルソリハビリテーション病院 からのお知らせ

11月3日(火)は通常診療を行います。

第38回 一般社団法人 日本看護学校協議会学会 開催

2026年8月6・7日

学会長／近森病院附属看護学校 学校長 山崎 正博
やまさき まさひろ

酷暑の中、8月6・7日の2日間にわたって、新来島高知重工ホール（高知県立県民文化ホール）で第38回日本看護学校協議会学会を開催しました。オンライン参加を含め、参加登録数830名の内、現地参加は学生229名を含め519名でした。

冒頭講演として厚生労働省医政局看護課課長 習田由美子氏

から「日本の医療の現状と看護職員の養成・確保、活躍についての期待」のテーマで、看護師の現況と見通し、看護学校教育の在り方や方向性について特別講演をいただきました。それに引き続き、学会のメインテーマに沿って、AIとそれを含めたDXの時代の看護教育の在り方と方向性を中心に発表していただきました。リテラシーの基盤である国語力の重要性の報告に加え、未来教育デザイナーの鈴木敏恵氏から、当校ですでに始まっている学生主体の教育「AI時代に輝く看護師—未来への羅針盤[6つのスピリット]」の教育講演とそれに基づくワークショップを行いました。入江博之理事長からは、AIを使うことで変化していく看護師像から「進化する看護師をつくろう」との御提言をいただきました。また、医療資源に乏しい地域での今後の医療で求められる看護師について、シンポジウム「AIと地域医療から看護教育を考える」を実施した他、近年自然災害が増加している状況から、今学会の締めくくりとしてパネルディスカッション「南海トラフ地震に対する高知県の取り組み」を行いました。

今回の学会は演題数が例年の倍の39と多数でしたが、管理部による円滑な学会運営の他、各職種による近森会のよさこい演舞を懇親会で披露していただき、即席で参加者と一緒に踊ることができて近森会の素晴らしさを知っていただく学会になりました。ご協力いただきました職員各位には心より御礼申し上げます。

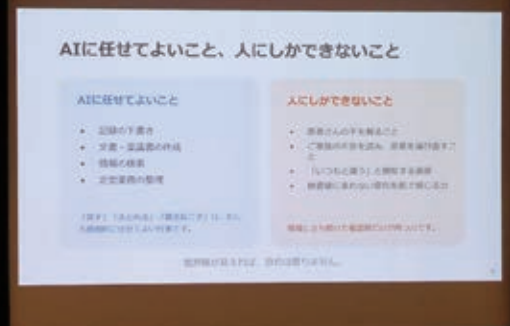
▼ 講演やポスター発表はもちろん、休憩所でのアイスクリン等のおもてなしも大好評。

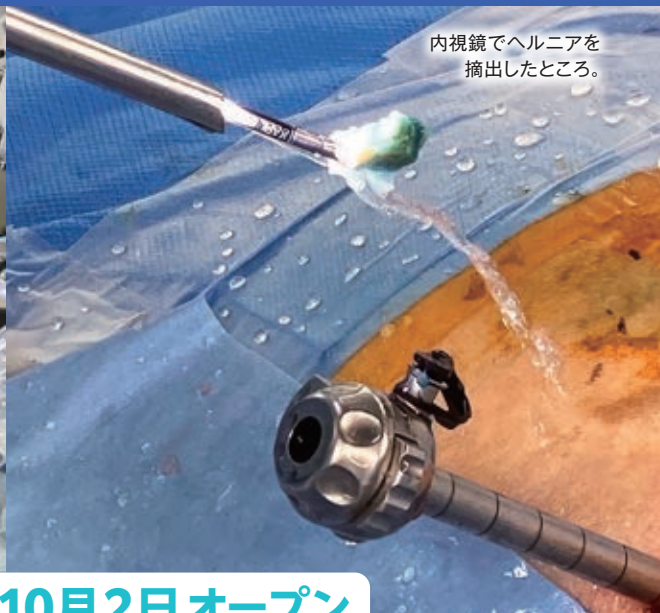


▼ 高知のおいしい料理とお酒に加えて、ちかもりよさこいの演舞で盛りあがった懇親会。



AI時代の看護教育を考える
～地域のいのちと暮らしを支えるために～





内視鏡でヘルニアを
摘出したところ。

10月2日オープン

脊椎内視鏡センター 新設

〈愛称:お腰の内視鏡センター〉

現在、脊椎疾患に対する低侵襲な内視鏡手術の需要は急速に高まっています。腰や足の痛み、しびれに悩む患者さんに、より身体への負担が少ない治療の提供のため、このたび『脊椎内視鏡センター』を設立します。診療体制のさらなる充実に加え、培ってきた技術を次の世代へつなぐべく、術者・指導者を育ててまいります。



近森病院 脊椎内視鏡センター センター長
兼 整形外科 部長

井ノ口 崇 いのくち たかし

近森病院 脊椎内視鏡センター
兼 整形外科 医師

藤井 勇輝 ふじい ゆうき

このたび、脊椎内視鏡センター（愛称:お腰の内視鏡センター）を設立する運びとなりました。徳島大学の西良教授に教えていただいた手術を、2022年4月からこれまで、600名を超える方に届けることができました。ひろっばや雑誌の掲載により、県外や四国外からの紹介患者さんや手術見学も増えています。

この春からは、同郷（宮崎県）の藤井勇輝先生が技術習得にいらしていただき、洗練されたシステム、チーム作りに貢献してくださっています。

センター設立により、さらにたくさんの足腰の悩みを抱えておられる患者さんたちに、この素晴らしい内視鏡手術をお届けいたします。これからもよろしくお願いします。

足腰の悩みを抱える
たくさんの方の患者さんのために



全内視鏡下脊椎手術の技術を磨く

今年の4月から全内視鏡下脊椎手術の研修のために入職させていただきました。

この手術は病態や患者さんの様々な背景にもよりますが、局所麻酔下でヘルニア摘出や神経の除圧が可能であることが最大のメリットです。全身麻酔のリスクが高い高齢の患者さんや、早期に社会復帰を希望される患者さんへ低侵襲の治療を提供することができます。

入職して半年足らずですが、脊椎内視鏡センターの立ち上げに携わらせていただき、身の引き締まる思いです。これからも井ノ口医師の技術を習得すべく日々研鑽を積み、高知の医療に貢献できるように頑張りますので宜しくお願いいたします。

近森
病院

献血

10/19(月)
12:30~17:15

400mL
限定

場所/
近森病院 総合受付
玄関前駐車場



論文掲載

論文名

Recurrence of Takotsubo Syndrome - Incidence and Clinical Characteristics -
(たこつぼ症候群の再発 ～発生頻度と臨床的特徴～)

掲載誌

Circulation Reports 2026; 8(5):
738-744



閲覧はこちらから ↑

第3弾

近森病院 循環器内科 西村 祐希

にしむら ゆうき



「また、たこつぼ症候群?」と思われた方は、ひろっぱ愛読者ですね。今回で当院からのたこつぼ症候群をまとめた報告は第3弾となります。第1弾は高齢者における特徴、第2弾は男女差、そして今回は「再発」をテーマにまとめました。

再発についてはあまり知られていませんが、当院データでは再発率5.5%という結果でした。また、たこつぼ症候群は精神的・身体的ストレスが誘因となることが知られていますが、再発例の多くでは誘因がはっきりしないことも今回の研究で分かりました。

たこつぼ症候群の発症には微小血管障害の関与も指摘されており、誘因の有無にかかわらず、何らかの異常が潜んでいる可能性が示唆されます。世界で初めて報告されてから40年近く経つ今も、たこつぼ症候群の病態はまだ解明されていません。土居先生のご指導のもと、これからも研究・報告を続けていこうと思います。

学会受賞

第81回 日本消化器外科学会総会

学部学生・メディカルスタッフ・初期研修医セッション

優秀演題賞 受賞



初期研修医 2年目

山田 真生 やまだ まお



演題

2度の消化管穿孔を契機に診断されたメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の1例



初期研修医 2年目

岡村 歩紀 おかむら あゆき



演題

肝円索に発生した脱分化型脂肪肉腫の1例

研修 修了報告

県外ドクター

県外の医療機関より研修で近森病院へ来られた先生方から、研修修了に際してメッセージを頂きました。

循環器内科

聖路加国際病院より

研修期間

2026年4月1日～9月30日

井手 恵太 先生

いで けいた



虚血とSHDを3ヶ月ずつ研修し、多種多様な循環器疾患の方を担当し、循環器の基礎を学ばせていただきました。大変有意義な半年間でした。ありがとうございました。

リハビリテーション科

亀田総合病院より

研修期間

2024年10月1日～2026年9月30日

鉦持 洋美 先生

けんもち ひろみ



半年の予定が4倍の2年研修させていただき、多くの素敵な出会いや学び、経験を得ることが出来ました。東北でも、近森で学んだ理念・精神を胸に診療を続けて参ります。ありがとうございました！

看護部

ふれあい看護体験

2026年8月7・14日

高校生31名を受け入れ

近森病院 看護部長室 看護師長

中島 久美 なかじま くみ

看護を実践している場面の見学や体験を通して、看護についての関心を高め、看護師をはじめ医療関係の道に進んでもらうことを願って、毎年夏休みに高知県看護協会ナースセンター事業「ふれあい看護体験」が実施されています。今年は県下57の病院がふれあい看護体験の受け入れ施設として登録し、多くの学生の申し込みがありました。

当院では8月7日・14日の2日間で合計31名の高校生が、看護師のユニフォームを着用し、ER・手術室の見学や各病棟での看護ケアの体験を実施しました。また、今年は訪問看護師から訪問看護の仕事について話があり、病院だけでなく、地域で働く看護師の姿をみていただきました。今回の体験が将来の進路を考えるきっかけとなり、いつか一緒に働くことができれば、とても嬉しく思います。



近森リハビリテーション病院 オープンホスピタル 開催

2026年8月2日



New face

ニューフェイス

- ① 所属 ② 出身地
③ 最終出身校 ④ 卒業年次
⑤ 趣味など

菅根 裕紀 すがね ひろき

- ① 循環器内科医師(科長)
② 千葉県
③ 東北大学医学系研究科大学院
④ 2025年
⑤ ドイツのBonn大学に1年間留学していました。心臓のカテーテル治療、特に弁膜症治療が専門です。



間島 礼聡 ましま ひろあき

- ① 消化器外科医師
② 福岡県
③ 九州大学
④ 2019年
⑤ 少しでも力になれたらと思います。



令和8年熊本地震 近森病院DMAT 活動報告

2026年7月29日～8月3日



7月28日(火)16時27分に発生した令和8年熊本地震に関し、厚生労働省DMAT事務局および高知県からDMAT派遣要請(二次隊)を受け、7月29日20時、近森病院DMATが出発、被災地における医療的な災害支援活動を行い、8月3日に帰院しました。今後もできる支援を続けていくとともに、熊本の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

DMAT行動記録

※時分はおおよそです。

7/29 20:00 近森病院を出発。
(水) [写真1](#)



7/30 16:00 活動拠点本部のある
(木) 済生会熊本病院へ到着。 [写真2](#)
17:00～22:00 特別養護老人ホーム→受入先の熊本市内の病院への搬送支援。 [写真3](#)



7/31 12:00 活動拠点本部へ再参集。病床、医療機
(金) 関、避難所、ライフライン情報を分析。
新規派遣指示に備え待機。
18:00 当日活動終了。



8/1 10:00～ 熊本市内の病院に移動。皮膚科形成
(土) 外科病棟で創処置・軟膏ガーゼ作成
等、精神科病棟で食事介助・清拭・
オムツ交換を行う。 [写真4](#)
午後～ 同病院から八代市の病院へ検査用
精製水400Lを搬送(道路損壊・渋
滞のため往復約5時間)。
[写真5](#)



8/2 午前 全活動を終え、撤収。
(日)

8/3 9:30 近森病院に帰着。 [写真6](#)
(月)

募集
職員
集中!



詳しくは、近森会
グループHPの
採用ページを
ご覧ください。



3,000とおりの誇れる仕事

募集職種

- 医師
- 診療放射線技師
- 看護師
- 臨床検査技師
- 介護福祉士
- 事務
- 救急救命士



医師

近森病院 救命救急センター
センター長／救急科 部長
井原 則之 いはらのりゆき

高齢者施設からの患者搬送や病院支援に従事しました。被災地では、入所者を守り続ける介護職員の必死の覚悟と献身に深く心を動かされました。また、食事介助やおむつ交換、創処置のための軟膏ガーゼ作成など、これまで医師として担う機会の少なかった業務を経験し、看護師やコメディカルの皆さんが日々支えている医療の重みを改めて実感しました。



各隊員の活動

看護師

近森病院 ICU病棟
徳橋 晃樹 とくはし こうき

氷川町の施設から熊本市内の病院への搬送支援を行った際は、利用者が急変しないか全身状態をアセスメントしつつ搬送を行いました。また病院支援を行った際は、多数の患者さんを受け入れたことで業務が滞ってしまっており、清潔ケアや処置の介助、食事介助などの業務をお手伝いさせていただきました。

被災したことで施設・病院のスタッフの疲弊が見て取れる状況でした。医療スタッフも被災者であるという事を念頭に置き、支援にあたる大事さを実感しました。



業務調整員

近森病院 救急救命士科
救急救命士
池田 廉 いけだ れん

現地では、猛暑の中停電している地域にある施設から比較的被害が少なくライフラインが整った病院への搬送や、発災から多くの患者さんを受け入れた病院の支援等を行い、現地の方の負担軽減を担いました。出発から帰院まで車両メーター上1,800kmほどの道のりを無事に走り終え帰院して参りました。



業務調整員

危機管理部 災害対策室 主任
松本 圭司 まつもと けいし

スケジュール管理、EMIS(広域災害救急医療情報システム)の入力・更新、連絡・記録等を担当し、近森病院内で後方支援をしてくれたDMAT隊員等と連携を取りながら、全員が無事に活動を終え帰院できるよう調整しました。また、熊本市内から被害の大きかった八代市への医療資材の搬送も担当いたしました。

被災された方々の為に自分たちにできることは何でもやる、という気持ちで支援にあたりました。



業務調整員

財務部 施設設備課 主任
松本 宏行 まつぎ ひろゆき

市内拠点本部内で現状の情報収集や、施設入居者の搬送や物資搬送を行いました。また病院支援に入った際は、病棟スタッフへの業務軽減(食事介助等)をお手伝いさせていただきました。被災した方々に寄り添い、日常を肩代わりし、その負担を少しでも軽減できたのかと思います。



体験

医療体験

- 高齢者体験
- お薬の分包体験
- グラム染色(顕微鏡)
- 骨密度測定、血圧測定
- 手洗いチェック など

初! 近森病院開設80周年記念

近森ひろっぱフェス

11/1日 10:00~15:00 近森病院 管理棟

どなたでも参加いただけます!直接会場へお越しください。

お楽しみ

こども縁日

キッチンカーも来ます。

緊急車両の展示も!

入退場
自由

災害時の備えにも ～長期保存ミレービスケット缶～

近森病院開設80周年事業の一環として、オリジナルデザインの「ミレービスケット缶」をご用意します。災害拠点病院としての思いも込め、もしもの時にも役立つ長期保存タイプです。職員や関係者の皆様、また80周年記念イベントにご参加いただいた方へプレゼント予定です。どうぞお楽しみに！

災害用伝言ダイヤル171
災害時の緊急連絡が、やり取りできるサービス

災害用伝言ダイヤル（171）のご利用方法
「171」をダイヤルし、ガイダンスに従って伝言の録音・再生を行うください。

伝言の録音・再生方法
伝言番号を利用する録音は2回、ダイヤルしてください。
伝言番号を利用する再生は1回、ダイヤルしてください。

毎月1日～15日
「伝言用伝言ダイヤル（171）」を体験できます。
体験利用日の場合、通話料が発生する場合があります。
●実際に災害が発生した際は体験サービスの利用ができません。
●ご利用の通話事業会社により、通話料が発生する場合があります。
（詳細はご利用の通話事業者にご確認ください）

近森病院 開設80周年 1946-2026

80th CHIKAMORI HOSPITAL × ミレービスケット

80年の想いをつなぐ、地域医療をつなぐ。
あなたとつなぐ。近森病院。

保存用
製造から5年の長期保存が可能です。
※賞味期限は年度をご確認ください。

当院は1997年に災害支援病院の指定を受け、救護病院や一般の医療機関からの負傷者を受け入れるための体制整備を進めてまいりました。2009年9月11日には、高知県より災害拠点病院に指定され、災害医療のさらなる後方支援活動に努めています。

写真はイメージです。



すまいる♥ナース通信 #認定看護管理者

人を育てることは、未来を育てること

看護部 シニア看護師長 教育担当/
認定看護管理者 西本 清香 にしもと きよか



2025年度に認定看護管理者を取得しました。2015年から2024年までは近森病院附属看護学校で看護基礎教育に従事し、多くの学生の成長を見守ってきました。2024年度からは再び近森病院で現任教育を担当し、人は「教えられる」だけではなく、「認められ、支えられる」ことで大きく成長することを改めて実感しています。

学生から現場の看護師まで、これからも互いに学び、支え合える環境づくりを通して、より良い看護の実践につなげられるよう努めていきたいと思ひます。



看護師3年目研修で、これから求められるリーダーとしての役割を伝える西本看護師長。研修で看護師としての成長を実感。



近森グループ看護部
マスコットキャラクター
モリンちゃん

近森病院
開設80周年記念

第27回 公開県民講座

11月15日(日) 14時～16時頃 | 開場13時30分 [会場]近森病院 管理棟3階

第一部

転倒したくない。—でも、ころんだら？

転倒から見える病気のサイン ～骨・脳・心臓から考える～

- リハビリテーション部 部長[理学療法士] 前田 秀博 ●循環器内科 [医師] 楠目 宝大
- 脳神経外科 部長[医師] 林 悟 ●整形外科 主任部長[医師] 西井 幸信



第二部

フランス芸術・科学・文学協会
プラチナメダル受賞記念講演

フェルメール

「名画に隠された真実」
信仰と寓意から読み解く
新しいフェルメール像

美術史家 森 耕治 先生

参加無料／予約可

参加予約は、ホームページから受け付けています。

※予約席には限りがあります。当日席もありますが、満席になり次第ご入場いただけませんので、ご予約をおすすめします。

[主催] 社会医療法人近森会 近森病院 担当:経営企画部 広報課 〒780-8522 高知市大川筋一丁目1-16

www.chikamori.com/

近森 公開県民講座

検索



熱烈応援 昇格人事

現場第一、これからも

近森病院 救急科 科長
平野 孝士 ひらの たかし

このたび救急科科長を拝命しました。肩書さは変わりましたが、現場でやることはこれまでと変わりません。現場を大切に、患者さんに最善を尽くすこと、スタッフが力を発揮できること、地域から頼られる救急科であることを目指します。責任は少し重くなりましたが、フットワークまで重くならないよう、これからも現場第一で頑張ります。

【出身大学】

横浜市立大学 2016年卒業

【主に担当する疾患・手技】

救急対応、病棟管理、全身麻酔、
血管内治療、ドレナージ

【認定資格】

- ・日本救急医学会 救急科専門医
- ・日本インターベンショナルラジオロジー学会
救急IVR認定医
- ・麻酔科標榜医

ハッスル研修医

何事にも全力で

初期研修医 1年目 戸田 ひな とだ ひな

入職して半年が経ち、少しずつですが仕事にも慣れてきました。ここまで頑張ってくれたのは、日々温かく支えてくださった皆さんのおかげだと実感しています。

この半年間、回っている科だけでなく他科の勉強会にも時間が許す限り参加し、学ぶ機会を逃さないという気持ちで喰らいついてきました。勉強会だけでなく、飲み会も行ける限り参加することをモットー^_^に、その中で他科の上級医の先生方やコメディカルの方々と交流ができ、その後の仕事もしやすくなり、充実した日々を送れています。

これからも何事にも全力で取り組んで成長していきたいと思いますので、勉強会も飲み会もどんどん誘ってください！



近森会グループで元気に働く仲間を紹介します

近森会グループ 生成AI活用チャレンジ 第2弾 〈動画マニュアルチャレンジ〉

動画マニュアル作成ワークショップ

2026年8月15日



チームAX リーダー 兼 リハビリテーション部 統括部長 高芝 潤
たかしば じゅん

動画マニュアルチャレンジの1～3位受賞者を講師に迎え、職員向けの「動画マニュアル作成ワークショップ」を開催し、12名が参加しました。

当日は、参加者が実際に使用するパソコンを持参し、動画や写真、既存のマニュアルなどを題材に、生成AIや各種作成ツールを組み合わせて動画マニュアル作成を体験しました。講師による実演

だけでなく、自ら操作しながら進める実践形式としたことで、作成手順やツールの使い分けを具体的に学ぶ機会となりました。

アンケートでは、「実物を見ることで理解が深まった」「作成の流れが分かった」「難しそうだと思っていたが、やってみようと思えた」などの声が寄せられ、概ね好評でした。今後も、生成AIを身近な業務改善や教育に活用できる機会を広げていきます。



▲ 実際に受賞作品を例にして手順を説明する、リハビリテーション部井上副部長。

第11回

2026年7月30・31日

病院体験ツアー



リアルな医療現場を体験

近森病院 消化器外科 主任部長 塚田 暁
つかだ あきら

今年も7月30日・31日の2日間にわたり、中学3年生から高校3年生まで23名の学生をお迎えし、病院体験ツアーを開催しました。

今回は今年から新たに加わった管理部を含め各部署を巡り、実際の医療機器やシミュレーター体験、ユニフォーム着用などを通してリアルな医療現場に触れていただきました。さまざまな職種が互いに協力し合って病院が成り立っていることを実感し、将来への関心を深める貴重な機会となりました。

最終日には参加者全員へ修了証をお渡ししました。皆さんの晴れやかな笑顔がとても印象的で、今回の体験が将来を考えるきっかけとなれば幸いです。いつか近森病院で一緒に働ける日が来ることを心より楽しみにしています。

最後に、日々の診療や通常業務の合間を縫って温かくご協力いただいた各部署の職員の皆さまに、心より深く感謝申し上げます。

C班



お疲れ様
でした!

↓アンケートから、子どもたちの声をご紹介します。

ER



救急医療の現場&
救急救命士って?



子どもたちの声

●救急救命士:1日に20件以上の救急搬送を受けていて体力も削られるのにすごいと思いました。●dr:忙しいですが、とてもやりがいのある仕事だと感じました。

循環器内科



心臓カテーテル治療
～シミュレーターを用いて～



子どもたちの声

心臓の装置の難しさを知り、すごいなと感じました。

消化器外科



腹腔鏡手術体験
～私、失敗しないので～



子どもたちの声

細かく、ミスが許されない動作を行い患者さんを助けているというところに尊敬を持ちました。

画像診断部



画像撮影
どうやる?



子どもたちの声

元々ドラマで知ったけど実際見たら結構難しい仕事で驚きました。

看護部



やってみよう!
看護師さんの仕事



子どもたちの声

音1つで健康状態を聞き分ける姿がかっこよかったです。

臨床工学部



臨床工学技士さんって
どんなことしてるの?



子どもたちの声

いろんな機械をさわって楽しそうだなと思いました。

B班



A班



一緒に働ける日を
楽しみにしています!



薬剤部

薬剤師さんの
仕事って?



子どもたちの声

薬剤について詳しいのが、かっこいいなと思いました。

リハビリテーション部 (PT・OT・ST)



リハビリテーションの
仕事って?



子どもたちの声

- PT: 最初、患者さんがどこも動かせない状態から、リハをして歩けたのを見たら、頑張って良かったと思うと思いました。
- OT: 電気バリバリのやつで一番笑いました。
- ST: 患者さんが笑顔になっているのが間近で見れそうと思いました。

臨床検査部

臨床検査
技師さんの
仕事って?



子どもたちの声

今回実際見てみてイメージが湧き、興味のある分野で楽しそうで、この職いいなと思いました!

管理部

縁の下の力持ち?
管理部のお仕事。



子どもたちの声

裏方の人がいてこそその医療があると知れました。





リレーエッセイ

「浅煎りコーヒー」の世界

医事支援部 医事課 渡瀬 舜也 わたせ しゅんや



私の趣味は浅煎りコーヒーを楽しむことです。「コーヒーは苦い」というイメージの方も多いと思いますが、浅煎りのコーヒーは、果実のような酸味や花のような香りなど様々な風味を持つのが特徴です。柑橘やベリー、時にはナッツやキャラメルを思わせるような風味もあり、一杯ごとに違った表情があります。

普段はその日の気分で豆を選び、少し工夫しながら淹れています。同じ豆でも焙煎日からの日数や抽出器具、湯温、挽き目などの違いが味や香りに大きく表れるため、毎回実験をしているような感覚です。様々な要素を調整しながら、その豆が持つ個性を引き出すように試行錯誤するのも楽しい時間です。

以前、一杯2,000円ほどするコーヒーを飲みましたが、上品で華やかな香りと透明感のある優しい甘みが口の中で広がり、浅煎りコーヒーの面白さを改めて感じました。浅煎りのコーヒーを飲んだことがない方は、ぜひ試してみてください。



私の趣味

自然の中でリフレッシュ

近森病院 5階C病棟 看護師
正岡 いのり まさおか いのり



私の趣味はキャンプや海・川遊びなど、自然の中で過ごすことです。アウトドアが好きな両親の影響で、小さい頃から家族でキャンプに行っており、自然の中で過ごす時間が大好きです。キャンプではBBQをしながら、普段とは違う「非日常」を味わうのがお気に入りです。

昨年、結婚をきっかけに青森から高知へ引っ越してきました。高知のおいしい食べ物や豊かな自然に魅了されています。夫の実家の近くには四十川が流れていて、いつでも綺麗な川で泳げるのが最高です。



そして、アウトドアに欠かせないのが愛犬の「じゃこ」。高知出身の夫が高知名物の「じゃこ」から名付けました。そのじゃこと自然の中を散歩したり、外でのんびり過ごしたりする時間も大切な癒しです。

職場でも、皆さんが気にかけて声をかけてくださり、支えられています。これからも感謝を忘れず、高知の自然とじゃことの時間を楽しみながら仕事も頑張りたいです。

私の○○

私の「最近のブーム」

臨床栄養部 管理栄養士
鈴木 絵梨奈 すずき えりな



3児の母です。4年間育児や介護休暇等でお休みを頂き、今年5月から仕事に復帰することができました。寛大に受け入れてくださった近森病院や臨床栄養部の皆さん、休むにあたって様々な手続きをしてくださった総務課の方には感謝の気持ちでいっぱいです。また、新たな気持ちで一生懸命頑張ろうと決意し日々の仕事に励んでいます。

仕事の息抜きに、夫がたまに一緒に本を読もうと私の分まで図書館で借りてきてくれたり、買ってくれたりします。映画やドラマ、アニメは、面白いと思う作品が似ていてよく一緒に見るのですが(最近見たのは『ストレンジャー・シングス 未知の世界』や『呪術廻戦』)、本に関しては、あまり趣味が合わず「今回で最後にしよう」と思っていたら、面白くて3巻まで読むことになった本に出会ったので紹介します。

「三体」という中国の劉慈欣(りゅう・じきん)さんが書かれた本です。人間の心理が面白く、自分だったらこの状況だとどうするだろうとか考えながら読んでいます。よかったら息抜きに読んでみてください。



近森
相談役の

ぶらり 旅

ユネスコ
世界遺産

飛騨白川郷

世界遺産の申請時、手をびたりと合わせた時の両腕全体の形に似ていることから合掌造りの名前が付いたそうです。



▲ 白川郷全景。人々が普通に生活しているので節度をもって見学してください。

紅葉まっ盛りの10月下旬、日本三名泉の一つ下呂温泉に1泊して、飛騨白川郷にぶらりと行ってきました。大小100棟余りの合掌造りが数多く残り、四季折々の美しい風景が楽しめます。

ちなみに、^{いろり}囲炉裏部屋の床下に穴を掘り、^{かいこ ふん わら}畑の土、蚕の糞、藁、枯草を交互に積み重ね、人間の尿を大量にかけ、土をかぶせて4～5年かけて発酵させて作るものとはなんでしょうか？

(答えは8ページの下)

ハイ、ポーズ!!



▲ 明善寺の鐘楼門。



▲ 神田家の1階 囲炉裏部屋。2階以上では養蚕が行われ、囲炉裏の煙はすのこ状の天井を通り抜け、蚕の飼育に適した温度を保ち、茅や木材を虫や腐食から守っていた。

学生ボランティアに参加しました

近森病院附属看護学校 1年生 梶原 未輝 かじわら みき

障 がいのある子どもたちとご家族を対象とした、のいち動物公園のイベント「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」に、学生ボランティアとして同級生3名で参加しました。

来園者へ飲み物を配ったり、アンケート記入を依頼して子どもたちとコミュニケーションをとる中で、1人ひとりの障がいの種類や程度によって関わり方が異なることを実感し、難しさも感じました。その経験から、相手と同じ目線に立ち一緒に楽しみながら関わることの大切さを学ぶことができました。この経験を活かし、今後の実習でも相手の個性や思いを尊重した関わりを大切にしていきたいと思っています。

左から上野美紀、筆者、中澤綾乃。



●当校では、授業の一環としてボランティア活動への参加を取り入れ、学生がさまざまな人との関わりや実践的な経験を通して学びを深める機会を大切にしています。

編集室通信

先日、雷と豪雨で最終便の飛行機が欠航。急遽ホテルを手配し、翌日の振替便も満席で、別会社の飛行機で帰ることに。さらに、夜中2時に震度4の地震、空港へ向かうJRも人身事故で運休…。まさに「想定外」の連続です。今回の出張で、旅の備えの大切さを実感。これからは「1泊分の余裕」を持って出掛けたいと思います。 充

診療数 2026年8月

—— 電子カルテ管理課 ——

● 近森会グループ

外来患者数 16,360人
新入院患者数 1,178人
退院患者数 1,191人

● 近森病院 (急性期)

平均在院日数 11.34日
地域医療支援病院 紹介率 95.85%
地域医療支援病院 逆紹介率 292.06%
救急車搬入件数 633件
うち入院件数 351件
手術件数 581件
うち手術室実施 341件
うち全身麻酔件数 241件

森本 腫

Hitomi Morimoto

近森病院 臨床検査部 副部長補佐
感染制御認定臨床微生物検査技師

聞き手／ひろっぱ編集部



先んじて、
おだやかなり

先に人が来ていたら、びっくり!

出勤はいつも一番乗り。臨床検査技師の森本副部長補佐は、早出スタッフが出勤する8時よりも早く検査室に姿を見せる。

「先に誰か来ていたら驚くし、逆に私が来ていないとみんなが驚くかもしれません」と笑う。早めの出勤は、通勤ラッシュを避け、自分のペースで一日を始めるため。また、朝一番に行う血液培養など、緊急度の高い検査の準備にもつながっている。

家では朝5時に起床し、長女(高1)と長男(小5)の弁当作りや家事、愛犬のフレンチブルドッグ2匹(大福、おじ)の世話をこなす。忙しい朝でも、自分のリズムを崩さない森本副部長補佐。その日々の過ごし方を覗いてみた。

勉強させていただいたお礼を

白衣への憧れから、医療職・臨床検査技師の道へ。近森への入職3ヶ月目、「東京医科大学病院で心臓超音波の研修を受けてきてほしい」と言い渡され、半年間の研修に送り出された。



その後も大阪の大学病院や長崎大学熱帯医学研究所での遺伝子検査研修など、専門的に学ぶ機会を与えてもらった。当時は「なぜ

私が」と戸惑うこともあったという。しかし今振り返ると、その経験への思いは違う。「若手の時に、これほど貴重な機会を与えてもらったのはありがたいことだったと思います」。

現在は、ICT(感染対策チーム)やAST(抗菌薬適正使用推進チーム)の一員でもあるが、細菌検査の話となると口調がぐっと引き締まる。「菌は形だけでなく、匂いからも原因菌を推定するんです」。医師やスタッフと議論を重ねながら原因菌を見極め、迅速な治療につなげることに仕事のやりがいを感じるという。「今は、受けてきた恩を後輩育成というかたちで病院に返していきたい」。学ぶ立場から、次の世代を育てる立場へ。これまでの経験を後輩に伝えることも、今では大切な役割の一つだ。

愛犬と戯れる至福の時間

プライベートの話になると「趣味らしい趣味がなくて」と困惑気味。どうやら家族の趣味に付き合い、共に過ごす時間そのものを楽しんでいるようだ。「夫や息子とバス釣りに行ったり、古着好きの夫の買い物に付き合ったり。でも、休日のほとんどは、愛犬と遊んだりお昼寝したりで終わりますね」と照れ笑う。

それでも、最近の楽しみは読書と教えてくれた。もともと本を読む方ではなかったが、同じ臨床検査部の橘副部長に勧められ、夜寝る前の読書時間が楽しくなってきたという。「副部長がいろいろなジャンルの本を貸してくれるのですが、私はノンフィクション系に興味があることが分かってきました」と図書館に通い、すっかり読書沼にハマっている様子。



MY竿を持つ森本副部長補佐。キャッチアンドリリースで釣りを楽しんでいる。



「フレンチブルドッグを飼うのが昔からの夢でした。プスカわいいところと、お尻がブリッとしているところがたまりません!」

明日も明後日も働ける幸せ

心身ともに健やかで、仕事を円滑にこなす人ほどよく眠り、早起きだということを、この取材を通じて感じてきた。森本副部長補佐もやはり、「良い眠り」と「早起き」で生活リズムを保つことを大切にしている。先手を打って仕事に向き合い、休むときはしっかり休む。「病氣と向き合う現場だからこそ、健康で毎日同じことの繰り返しは幸せ」。早めに出勤して準備を整え、仕事では専門性を磨き、休日は家族や愛犬と過ごす。森本副部長補佐は、無理なく自分のリズムを保ちながら、今日も検査部で変わらぬ一日を重ねていくのだ。